

## 第3回鹿野地域振興会議 議事概要

日 時：令和6年7月16日（火） 午後1時36分～午後3時50分

場 所：鹿野町総合支所 2階 会議室

### 【出席委員】

岡本洋一、小川義和、長谷川誠一、兼平 恵、砂川重雄、塚本 均、筒井洋平、佐々木千代子、吉井秀三、山名 修、池原恵理、武部夏美

以上12名（敬称略）

### 【欠席委員】

なし

### 【事務局】

<鹿野町総合支所>

岡本支所長、小林副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、國森産業建設課長、岡田市民福祉課長、宮本地域振興課課長補佐

<危機管理部> 北村危機管理課課長補佐、岸本危機管理課主任

<東部消防局> 岩見消防総務課長

### 【傍聴者】なし

### 【日 程】

#### 1 開会

#### 2 会長あいさつ

#### 3 議題

(1) 地域未来プランについて (資料ダウンロード)

(2) 先進地視察について (資料ダウンロード)

・子育て支援

・生活交通

#### 4 報告事項

(1) 気高消防署の新築移転について (資料ダウンロード)

(2) 行事経過報告及び今後の予定について (資料ダウンロード)

#### 5 その他

#### 6 閉 会

## ◎議事概要

### 3 議題（1）地域未来プランについて

事務局より資料1に基づき説明。

・「鹿野地域未来プラン（たたき台）」を基に説明

【事務局】今回、素案を提示しご意見をいただいたうえで次回の地域振興会議に修正したものをお示しし、ご了解いただければと考えています。それを踏まえて今年度後半の地域振興会議で実施計画について協議させていただき、年度末までに完成させたいと考えています。

【委員】中山間地域対策強化方針に準拠して整理されているということだが、強化方針は7年度までとなっている。市としてはこの強化方針を見直すのか。また、8年度に強化方針が見直されたら、このプランも見直すのか。

【事務局】中山間地域対策強化方針を含め計画は期間ごとに見直されるものと思いますが、基本的な方針に大きな変更はないと考えます。今回の計画も強化方針と紐づけはしていますが、鹿野地域の実情に合わせた課題や取組を上げていますので、強化方針が見直されることによってプランの内容が大きく変化するものではないと考えています。

【委員】強化方針に掲げてあっても、このプランにないものがあるのか。

【事務局】現在の鹿野地域の課題を踏まえ、支所と地域で取り組んでいるものや今後取り組む必要が高い内容を揚げていますので、強化方針の内容すべてを網羅しているものではありません。

【委員】12 ページの「③伝統芸能・伝統行事等の維持・継承」にある「ジュニア川柳の歩道の句木の管理・周知」について、川柳街道は誰も見る人がいない。お堀端や二の丸付近にまとめて設置したほうが、花見客や公園を散策する人が見るので良いと思う。

【事務局】以前から意見いただいており、担当や財政と話してきました。川柳街道という看板もあり、また一カ所に集めるにもお金がかかる。ただし、維持管理に費用が掛かるので、大賞を取っていない朽ちた句木は破棄し、数を減らして維持していこうと考えています。

【委員】川柳街道という看板があるから句木をずっと管理していかなければならないと

いう考え方から変えた方がいいと思う。長期的に句木の移動を検討してはどうか。

【委員】句木の管理をしなくなれば、街道が草ぼうぼうになるのではないか。

【事務局】句木の有無にかかわらず、市道管理で年一回は除草します。句木の管理については検討してみます。

【委員】再認識するという意味で表現を考えてほしい部分がある。目次の「(3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進」になっているが、最近は様々な知識や経験を持った転入者が多いことから、「発掘と人づくり」とし、転入者を含め新たな技術や知識を持った人を見つけ出し、まちづくりに参加してもらうように取り組んだ方がいいと思う。4 ページの「資源」のところで、過去から「福祉のまち鹿野」ということで取り組んできた。他のまちにはない様々な福祉施設が鹿野にはあり、これも資源と考える。新たに「医療・福祉」の項目を入れてもいいのではないか。11 ページの「(3) 魅力ある地域づくり・人づくりの推進」の優先的に取り組む事項に「①各地区のまちづくり協議会等を核とした魅力と活力の向上」とある。様々なところで「まちづくり協議会」と言われるが、「市はまちづくり協議会を重視していないのではないか。協議会の連絡会を持ってもいいのではないか。」という声もある。市は「検討します」という回答で終わっているが、鹿野にも3つのまちづくり協議会があり、会長だけでも意見交換の場を持ってもいいのではないかと総合支所に頼んだが実現していない。まちづくり協議会を大切に思っただけなのであれば、それぞれのまちづくり協議会がどのような思いで活動しているのか、情報交換の場を設けていただくことを総合支所をお願いしたい。13 ページ「4 めざす将来像」に「誇りを持って住み続けることができる鹿野町」とあるが、これに「安心して」という言葉を入れるべきだと思う。「誇りをもって安心して住み続けることができる鹿野町」に変更してほしい。

【事務局】見直しさせていただきます。項目名ですが、中山間地域対策強化方針に合わせたと申し上げましたが、鹿野町と少しずれがある項目もあるので、変更については本庁も含め内部で調整してみます。

【委員】12 ページ「(4) 交流による活性化と移住定住の推進」について、鹿野は移住者にとって魅力的で開かれた地域というイメージがある。関係人口についても

鹿野を訪れる人が結構増えていて、地域外から鹿野に来て活動する人も増えている。ラーニングワーケーションで鹿野町に来て、小学校と連携する取り組みも増え充実してきていると感じる。そのうえでもう一步踏みこんで、小学生のいる家庭が1、2週間来る場合、子どもも一緒に来られるという仕組みができたならさらに完成度が高いと感じる。デュアルスクールの仕組みを取り入れて来町を後押しできる仕組みを作っていただきたい。

**【デュアルスクールとは】**

地方と都市の両方の良さを教育活動に取り入れることができるよう、地方と都市の二つの学校が一つの学校のように教育活動を展開することができる「新しい学校のかたち」のことです。「二地域居住」や「地方移住」を促進する際の子どもの教育上の課題を解消するとともに、親の働き方改革や、地方と都市の双方の視点を持った児童・生徒を育成することを目的としています。

(徳島県立総合教育センターパンフレットより抜粋)

**【委員】** 10 ページの「(2) 産業の活性化と雇用の確保」の優先的に取り組む事項「③ 農地等の保全・維持」について、現在、ふるさと鹿野が農作業の受託をしているが、手一杯。儲からないので人も入れないし、じり貧だと思う。耕作放棄地が増え農業が衰退してきた。ここに書いてある4行ほどで片づけることができる問題ではない。新規就農者が増える見込みも、地域の人が農業を継ぐことも、若い人の参入は皆無。しかも定年が延長すると農業が地域と一緒に衰退すると感じている。農業は鹿野町の基幹産業。どんどん耕作放棄地が出てくれば、水害も増える。そういうことを踏まえ、農業の振興にもっと取り組むべきではないか。ふるさと鹿野に補助金と人を入れて受け皿を作らなければ、農業に関する様々な問題に答えが出せない状況となる。スマート農業と言われるが単価が高い。農業機械はととても値上がりしている。このままでは耕作放棄地が増えるばかりで、土地の所有者に意識を変えてもらわないと鹿野町の農業は守れない。これだけの内容ではインパクトがなく、「農業を守ることが地域を守り鹿野町を守る」ということを前面に出してもらわないと、今の課題は乗り越えることはできない。

**【委員】** 5 ページの下に書いてある「若年女性人口が減少しつづけると人口が減少」と

いう表現があるが、若年女性が減るのが悪いといったように感じられて気になる。

【事務局】この表現については、2024年4月に国の「人口戦略会議」が示した将来人口推計の文章から引用させていただきました。

【委員】「4めざす将来像」の中の「誇りを持って住み続けることができる鹿野町」の「誇り」という言葉が引っかかる。いい表現はないものか。まちづくり協議会では「子ども達が帰ってきたいくなるまち」と表現しているが、これはまち協の専売特許なので。

【事務局】先ほども意見が出ましたのでリニューアルしたいと思います。

【委員】6ページ下段の防犯について、特殊詐欺認知件数等が示されているが、高齢の独居世帯が増えればこのような特殊詐欺の被害を受けるだろうというデータの根拠としてあげているのか。これは県全体の数値だが鹿野町のみの数値を表すことができるのか。

【事務局】調べてみないと分かりません。

【委員】併せて、消防団員数、土砂災害警戒箇所数なども具体的に示した方がいいと思う。

【事務局】防災防犯の数について可能な範囲で具体的に示します。

【委員】9ページ「(2)産業の活性化と雇用の確保」の鹿野地域や鳥取市の取り組みについて、地域外の税収を増やそうとすると、ふるさと納税が重要になると思うが、独自産業化とか、ふるさと納税に焦点を合わせて商品を作ることを支援していけば、いいスパイラルが生まれるのではないかと思う。そういったことに力を入れるというキーワードがあると取組が進むと思う。そもそも現状はどうなっているのか。

【事務局】既に鹿野地域の産品は販売されています。

【委員】地域によっては専用の担当課を置いて税収を上げることに力を入れているところもあるが、今聞いていると鳥取市は力を入れてなさそうだと感じる。

【事務局】鳥取市も資産活用推進課内に担当部署を置いています。

【委員】自分も米を出しているがニーズがある。

【委員】関係人口にもつながるので、鹿野町でも物産づくりなど取り組めたらと考える。市の担当と一緒に商品づくりをするということはないのか。

【委員】鳥取市はそういうことはない。

【委員】ふるさと納税に強い地域と鳥取市との差ってどういう違いがあるのか。

【事務局】どのような返礼品を作っていくのかということだと思いますが、あまり勉強したことはありません。

【委員】プランを作ることに一生懸命みんなに知ってもらうことも大事なことだが、より多くの地域の人たちにプランを知ってもらえるかが重要。一枚もので端的にわかりやすく、明るい未来をイメージさせる手法が必要。「鹿野ってどういうところですか」と聞かれたときに小さい子から高齢者まで「こういうところがいいですよ、こんなことがありますよ」と言える仕掛けがあればよい。様々な伝達ツールがある中で、こういうものをどの戦略でどう伝えていくのかということが大切だと思う。

【委員】12 ページの鹿野祭りの内容があまり具体的ではない。祭りと行政の連携がよくないように思う。鹿野学園の子どもたちにも参加できる子とできない子がいる。鹿野祭りの将来性について支所はどう考えているのか。

【事務局】神事ですので鹿野祭りに支所は関われないです。

【委員】他の地域の祭りで行政が関わっているものは多くあるのではないか。

【委員】鹿野祭りに支所は関われない。

【委員】具体的に何かあるのか。このままでいいと思っているのか。

【事務局】観光イベントの桜まつりとの協力関係において、交通整理等の支援をしていますが、鹿野祭り自体は城山神社の祭礼ですので、支所が直接関わることはありません。

【委員】プランの中に鹿野祭りのことが記載されていたので、この祭りを支所はどうしてくのかという記載がないので伺った。

【委員】屋台の修理等には行政に助成をしてもらったりすることはあるだろうが、祭り自体は始まった経緯もあり、直接関わることはできないと思う。

【委員】祭りが困ったときに助けてもらえる体制を住民も支所も準備してもらえていたらいいのではないか。

【委員】人が来るといという観光の観点から支所と連携をしている。

### 3 議題（2）先進地視察について

事務局より資料2に基づき説明。

・視察候補の子育て支援（岡山県奈義町）及び生活交通の資料を基に説明

子育て支援の視察希望者 計7名

（池原委員 吉井委員 長谷川委員 岡本委員 兼平委員 砂川委員 塚本委員）

生活交通の視察希望者 計5名

（武部委員 山名委員 佐々木委員 筒井委員 小川委員）

●結果：子育て支援について視察することに決定

時期：10月か11月 視察先：岡山県奈義町

#### 4 報告事項（1）気高消防署の新築移転について

事務局より資料に基づき説明。

・気高消防署新築移転の資料を基に説明

【委員】建設予定場所は水害があるため河川工事の予定がされているが、移転工事に水害対策は計画されているか。

【消防局】市のハザードマップでは浸水は想定されていないが、県が発表している浸水想定を見ると50センチ前後の浸水の可能性があるようです。地元からも浸水の話は聞いています。緊急車両の出入りは、北側の郡家鹿野気高線からを計画しており、敷地と道路の高さを合わせないと円滑に出入りできないことから、今の状態から約1.5メートル造成することを考えています。浸水想定水位より高くなることから、消防署への浸水はないと想定しています。

【委員】移転することによって、車両が増えたり機能が拡充したりするのか。

【消防局】構造で言えば自家発電設備を設置します。3日間程度停電しても消防署が機能継続できるような設備を計画しています。また、計画段階ですが消防車両も大規模災害時の対応車両を考えています。消防車、救急車の配備台数についてはこれまでと同じです。

【委員】県道のすぐ近くで事故が心配ではないか。信号を付けるなどは考えていないか。

【消防局】信号は考えていません。緊急車両の出入りは敷地の北側を予定しています。いったん市道側に出てから県道に出るので、直接大きなカーブに出ることはありません。

【委員】ヘリポートができるが、これまでどれくらいの利用があり、今後どのような活用を想定しているか。

【消防局】今はっきりした数字は持っていませんが、これまでヘリポートがなかったため、鳥取自動車道の良田パーキングエリアをよく使っています。気高消防署にヘリポートが出来れば救急車とヘリを直接接続できるため、患者をパーキングエリアまで運ぶ必要がなくなり時間短縮になります。年間の救急事案に対するドクターヘリの支援活動については、令和5年の気高消防署管内で41件の支援活動をしています。ヘリコプターが降りるところに救急車と消防車が行きまでするので消防署が空になってしまいます。気高消防署にヘリポートができれば、署に消防車がある状態でヘリ支援ができます。

#### 4 報告事項（2）行事経過報告及び今後の予定について

事務局より資料に基づき説明。

意見なし

次回 8月28日（水）13時30分 開催予定